

CANVASの活動における 社会運動の拡散とそのメカニズム

—OTPOR! との比較と 4月6日運動への支援を中心に—

The diffusion of social movements and its mechanism
in the activity of CANVAS:

Focusing on comparison with OTPOR! and its support for
April 6 Youth Movement

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程2年
野原 直路

森基金成果報告書（研究成果報告書）

発表の構成

< 第一部 >

- (1) 研究概要
- (2) 研究目的
- (3) 研究対象
- (4) 研究背景
- (5) 先行研究
- (6) 研究手法

< 第二部 >

- (1) 研究結果
- (2) 研究のまとめ
- (3) 参考文献・資料、インタビュー詳細、修士論文章立て

(1) 研究概要

社会運動拡散のメカニズム

体制転換やその試みの過程で、社会運動が注目を集めた事例が多数

2000年前後「色の革命」セルビア、グルジア、ウクライナ等 旧共産圏

2010年「アラブの春」チュニジア、エジプト、リビア、シリア等 アラブ圏

2013年「ユーロマイダン革命」ウクライナ 2014年「雨傘革命」上海



体制転換（期）における社会運動は、いかに拡散し、拡大するのか？



背景には、同じ地域や国の内部の事情だけでなく、
地域や国を越えた社会運動の相互作用も存在する。



社会運動や革命運動が、
地域を越えて広まる（拡散する）メカニズムを明らかにする。

(2) 研究目的

- (1) CANVASの国際的な社会運動支援活動のメカニズムを解明する
- (2) CANVASの「非暴力的抵抗運動」支援活動の実態を明らかにする。
- (3) それにより、支援を受けた団体の活動に、どのような影響が及ぼされ得るかを考察する。



CANVASと、それを支援する諸アクターの活動が、今後どれほどの広まりを持ち得るのかを考える一助になる。

体制転換に関する地域研究（特にアラブ地域）に、地域外の社会運動の関与という視点をもたらす。

(2) 研究目的 注意点

本研究は :

体制転換や革命の成否・帰結を、社会運動から説明するものではない。

社会運動拡散の試みを、無闇に肯定または否定する意図はない。

本研究の主題

社会運動拡散のメカニズム

+

その過程で、社会運動が与え合う影響

(3) 研究対象

OTPOR ! と初期CANVAS

- OTPOR ! (「抵抗 ! 」) = セルビアの反ミロシェビッチ体制運動
 - 1998年学生が中心となって結成、100万人デモやキャンペーンを多数実施
 - 2000年に体制が打倒される
 - 2003年に政党を結成、民主党に吸収合併
- 「色の革命」における「非暴力的抵抗」運動支援 (2002年〜)
 - OTPOR ! の一部メンバーが、自分たちのノウハウを伝える活動を開始
 - ベラルーシ、**グルジアの「バラ革命」**に対して、革命運動の支援
- CANVASの結成 (2003年12月)
 - Center for Applied Nonviolent Action and Strategies
 - OTPOR ! 一部メンバーが結成した、「非暴力的抵抗運動」支援の専門NPO
 - **ウクライナ「オレンジ革命」**、キルギスタン、レバノン等に対して支援



革命運動 (社会運動) に与えた影響、仕組みが注目される。

(3) 研究対象

OTPOR ! の支援事例

- 「色の革命」の運動で、OTPOR! の影響が存在するという指摘
 - (Binnendijk and Marovic 2006) (Kuzio 2006) (Tudoroiu 2007) (Nikolavenko 2012) (D'Anieri 2007) (Bunce and Wolchick 2011) (Beissinger, M.R. 2007a) (笹岡2012)等。



- 活動に共通点が指摘される
 - OTPOR ! と接触したクマラ(グルジア)、ポーラ(ウクライナ)等の団体が、同じ戦術(「選挙モデル」「非暴力運動」)を採用
 - いずれの団体も、「抵抗」を象徴する、拳のロゴマークを使用

出典：Belgrade Forum for The World of Equals

- クマラ、ポーラのメンバーが、OTPOR ! (初期CANVAS) のセミナーを受講
 - 欧米の財団による資金援助
 - 金額は数十万ドル(カーネギー・カウンセル 2011)〜数百万ドルとも
 - 支援者はソロス財団(Open Society Institution)、the National Endowment for Democracy (NED), Freedom House, International Republic Institute (IRI) など

一連の革命運動の発達において、無視できない影響が指摘されている。

(4) 研究背景

CANVASの拡大

～2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013

OTPOR!

CANVAS (Center for Applied Nonviolent Action and Strategies)

セルビアの社会運動
・学生らが結成
・反ミロシェビッチ運動
のちに政党結成

社会運動拡散の専門団体
・社会運動 (革命運動含む) の支援
・「非暴力的抵抗」の普及を掲げる
・OTPOR! の一部メンバー (スルディア・ポポヴィッチ、スロボダン・ディノヴィッチ、アンドレ・ミミロジェヴィッチ) が結成

「色の革命」を
中心とした支援活動
・グルジアKmara
・ウクライナPora等

世界各地における支援活動
・37の国
・約1000人に対して支援
・「アラブの春」
・ユーロマイダン革命 (ウクライナ)

世界規模で「非暴力的抵抗運動」の支援を行なっている。

2015年までのCANVASの活動領域



WHERE WE'VE BEEN

(5) 先行研究 OTPOR! の活動のメカニズム

いかにして活動を行えたのか：

- ・ 欧米の財団からの援助を得つつ、活動規模を拡大
(Joksic and Spoerri 2011) (Bunce and Wolchick 2011)

先行研究の検討：

- ・ 資金だけがCANVASの活動の資源であるとは限らない。
- ・ しかし、財団以外の関与や支援、協力の実態は、断片的に報告されるのみ。



どのような団体・個人が、いかなる手段で
CANVAS (OTPOR!) を支えるのか、解き明かす必要がある。

(5) 先行研究 OTPOR ! の活動の実態について

「何を伝えたか」

- ・ 「選挙モデル(Electoral Model)」

選挙の実施を求めたり、不正選挙を契機にして反対運動を行う「選挙モデル」が広まっていたという (笹岡2012)、(Bunce and Wolchick 2011)。

- ・ 非暴力的運動

弾圧を受けても武力や暴力による抵抗を行わない活動(T.Kuzio 2006)

「誰に伝えたか」

- ・ 主に「色の革命」における旧共産圏の革命運動。

先行研究の検討：

- ・ OTPOR ! / 初期CANVASの、支援活動開始当初 (ー 2 0 0 4 年) に関する説明にすぎない。
- ・ 初期と比べ、より国際的に多方面で活動する現在のCANVASに、妥当とは言えない。
- ・ CANVASの目的や思想が不明であり、どのような団体が今後支援対象になり得るか判断ができない。

「色の革命」以後のCANVASの活動を踏まえ、
その支援の内容や相手、手段、目的を調査すべきである。

(5) 先行研究

地域研究の観点から

「アラブの春自然発生説」

- ・ 「アラブの春」の運動は、アラブ人が自らの力で起こしたものであり、外部の関与はなかったという議論 (白杵 2011) (酒井 2011)

陰謀論 (報道のレベル)

- ・ 「アラブの春」は、CANVAS等、外国の団体が背後で操作していたという言説：テレビ東京「未来世紀ジパング」(2013)にて『革命の輸出企業』と紹介

先行研究の検討：

- ・ 当該地域の社会運動の発展過程において、地域外の団体による関与の実像が、十分に理解されていない。
- ・ そのため、外部の社会運動の関与という要素の欠落や、過大評価に結びつく。
- ・ 最近になって、CANVASへの注目が集まりつつある。(e.g.酒井 2012)

CANVASがどのように地域や国の団体に関与していくのか、さらにどのような影響が各地の運動に及ぼされうるのか、調査が必要

(6) 研究手法

(6) 研究手法

概念と語句

- 社会運動

「社会の制度の変更や廃止を求めたり、それに抵抗したりする、人々の集合的な行動」 (Turner and Killian 1987)

※革命運動はここに含まれる

※「革命」や「体制移行(期)」の説明は研究の射程に含まず、運動までが対象

- 社会運動の拡散

「運動の戦術あるいは運動のフレームワークの移転、または応用的学習」 (Bunce2010)

(6) 研究手法

理論と分析手法

- 拡散される内容について
 - 組み立て式の拡散 / Modular Diffusion (S.Tarrow、 M.R.Beissinger 2011)
 - 対抗理論：選挙モデル / Electoral Model
- 拡散のメカニズムについて
 - 媒介された拡散 / Mediated Diffusion (McAdam 2005)
 - 対抗理論：
関係性による拡散 / Relational Diffusion、
関係性によらない拡散 / Nonrelational Diffusion(同上)
- 分析手法 (CANVASの活動実態・メカニズムについて)：資料分析
 - CANVASのマニュアル
 - 過去の発言やインタビュー
- 分析手法 (CANVASの思想や傾向について)：言説分析
 - 2005年以降にCANVASが出版した書籍やマニュアル、発言やインタビューをもとに
- 分析手法 (CANVASの活動の影響について)：フィールドワーク
 - エジプトの4月6日運動 (被支援団体) に対して、2014年8月の1ヶ月間、カイロにてフィールドワーク
 - 対象者：CANVAS支援当時から活動している幹部メンバー3名 + 現代表者

(6) 研究手法 「4月6日運動」を事例とする理由

CANVASとの接触が明らか

- エジプトの「アラブの春」を率いた「4月6日運動」の幹部 (Mohammed Adel) ほか数名が、2009年にCANVASのセミナーを受講。
- CANVASのマニュアルの一部が、4月6日運動により使用された。
- CANVASと4月6日運動は、同じロゴマークを採用

CANVASが継続的に4月6日運動に言及、評価をしている。

- CANVASの運動のマニュアルの中で、「ケーススタディ」として4月6日運動が取上げられている。
- 4月6日運動が頓挫したあと、CANVASはその「失敗」についてコメントを出している。

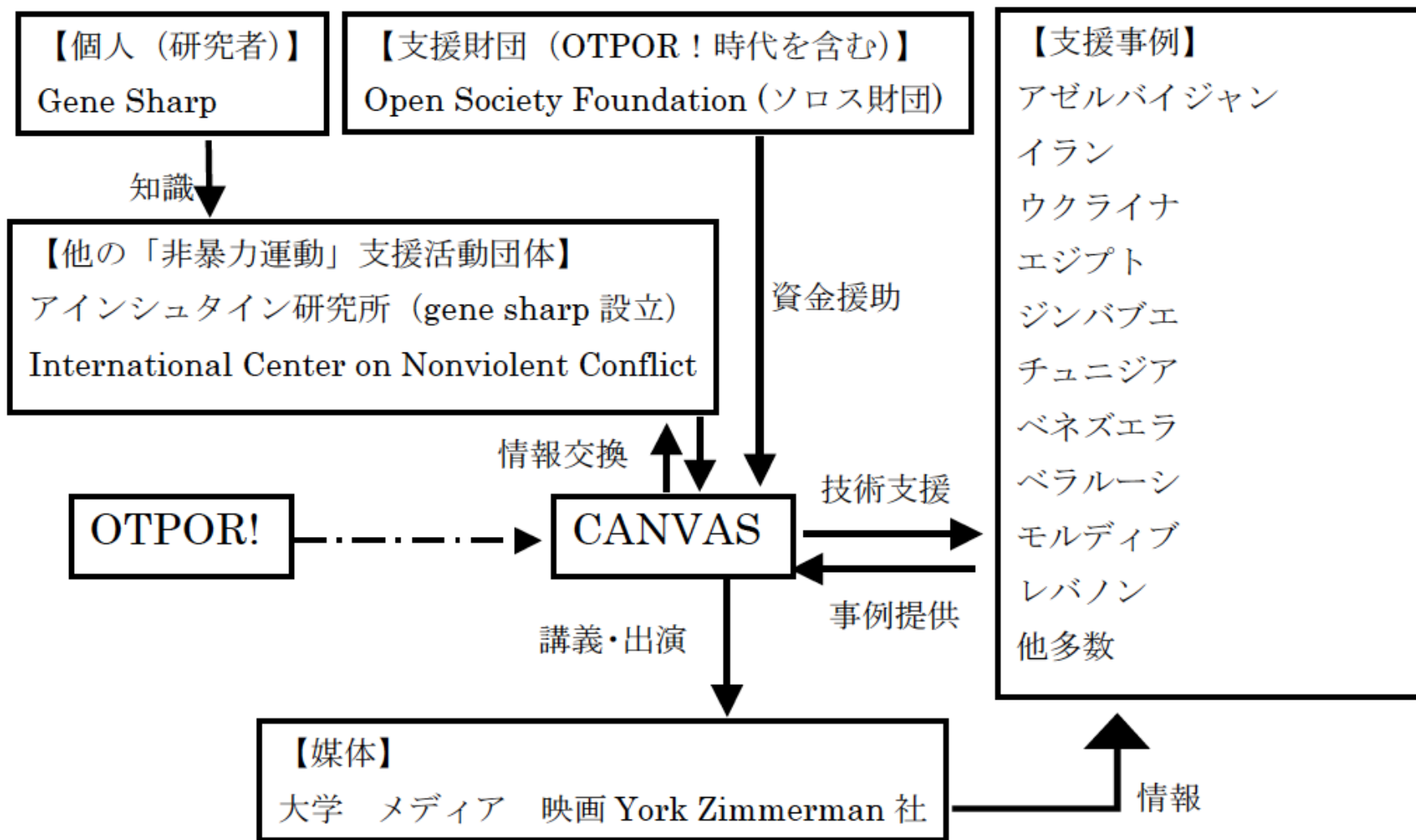


CANVASが継続的に注目・言及している数少ない事例であり、「色の革命」以降のCANVASの支援内容や方針、影響を調べる上で重要な事例

【第二部】 研究結果 CANVAS支援のネットワーク

- 【財団・寄付者】
 - CANAVSの財源の半分はメンバー自身、
 - 残りは私的財団や個人からの寄付（筆者のインタビューより）。
- 【講義の場】
 - 活動の一環として、大学での講義も多数持っている。
- 【広報活動】
 - 記録映画（York Zimmerman社）
 - TED（講演会）出演
- 【類似団体との情報交換】
 - CANVASのマニュアルの中に、他の団体の提供しているリソース（デモのシミュレーション・ゲーム、映画、著作等）が紹介されている。
 - 他団体もCANVASについて言及
- 【署名運動】
 - CANVASや、その関係団体の「非暴力運動支援」を支えようという署名運動が存在。
財団だけではなく、大学や個人も協力関係を築いている。

【図】「非暴力運動」支援の国際的ネットワーク 筆者作成



※「欧米政府の協力者」ではない

米国の外交政策 (イラク戦争) を批判している上、財源の半分はメンバーが、ほかは私的財団が拠出→外国政府と結びつくメリットが見当たらない。

研究結果

CANVASの目的・方針

• 支援対象は「革命運動」にとどまらない

- 「より自由で、平等で、開かれた社会を構築するために働こうと意図する、または働いている活動家」のため。“Nonviolent Struggle 50 crucial points”より
- 「権威主義国家か民主主義国家かは問わず、招待をされた場合のみ」支援を行い、かつ「暴力を用いた歴史のあるいかなる者へも支援は行わない」（筆者のインタビューにて）
 - “CANVAS 50 crucial points”の中に、「革命 (revolution) 」という単語は、2回しか登場しない。これに対し、「非暴力運動 (nonviolent action) 」は37回

• 権力からの自由

- マニュアルの中で、「弾圧からいかに身を守るか」が主要なテーマになっており、「非暴力運動」はその手段。
 - 否定的な文脈で、「抑圧 (repression 抑圧) 」は48回、「独裁者 (dictator) 」が11回、「非民主主義的 (nondemocratic) 」が8回、「従属 (obedience) 」が20回登場する。
 - 肯定的な文脈で、「民主主義 (democracy) 」、「民主的 (democratic) 」、「民主化 (democratization) 」を合わせて34回、「自由 (free) (freedom) 」より自由な (freer) 」は合計27回登場する。

• 幅広い支援対象を想定

• 「権力からの自由」を追求する傾向

研究結果

何を伝えるのか？

章立て	内容
I Before You Start (はじめる前に)	<ul style="list-style-type: none"> 政治的権力(political power)の源泉について 人々の権力への支持が、権力を支える支柱(pillar of support)である。 権力と戦うために、人々の力 (people power) を味方につける必要がある。
II Starting Out (開始する)	<ul style="list-style-type: none"> 敵と自分の能力の客観的に評価 (assessment) する。 組織作りと活動計画を策定する。 ターゲットを絞り込んだ広報の手法 より大規模な広報活動について
III Running a Nonviolent Campaign (非暴力運動を実施する)	<ul style="list-style-type: none"> キャンペーンや活動の戦略を立てる。 資源 (人、物、金) を動員する方法 逆算思考モデル
IV Working Under Repression (抑圧の下で活動する)	<ul style="list-style-type: none"> 抑圧の中でのモラルとコミュニケーション方法 敵の抑圧にいかに対応し、活動するか。
V Next Steps (次のステップ)	<ul style="list-style-type: none"> 「ARTモデル」と知識の伝播 オンライン上の学習資料 (デモのシミュレーションゲーム等) の紹介
Annex (補足資料)	<ul style="list-style-type: none"> 非暴力運動の手法 セルビアにおける非暴力運動 (OTPOR ! 等) の歴史
その他 (コラム等)	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な成功事例、失敗事例

【内容のまとめ】

・ 実践的内容

細かな応用条件の指定がない

→汎用性の高い内容

「CANVASのカリキュラムは、簡単に応用でき、どのような場所でも用いられるようにデザインされて」 いる。

(筆者のインタビュー)

「非暴力運動」支援に
関する他の機関も紹介

技術のセット

CANVAS “Non Violent Struggle: 50 crucial points”
問答集

研究結果

CANVASによる支援の方法

- 教科書（マニュアル）の発行、ネットでの無料配布
- 教科書の多言語化（アラビア語、フランス語、スペイン語、ペルシャ語等）
- 世界各地からのトレーナーの募集
- メディア戦略、広報
- 大学での授業（ハーバード・ケネディ・スクール等）
- レクチャー（トレーニング）の開催
- ~~類似団体の情報の提供（デモのシミュレーションゲーム、書籍紹介等）~~
様々なチャネルを駆使し、直接的・間接的に支援

研究結果

4月6日運動への支援と影響

【CANVASとの接触】

2009年夏、代表者の一部(Mohammed Adelほか)が
CANVASのレクチャーに参加



出典：4月6日運動公式Facebookページより

【影響】

<証言>

- 「人々を**動員する手法**と、**弾圧に対抗**する術を学んだ」(アル・ジャジーラ2011)
- 「影響は限定的」だが「**SNSの使い方**」を参考にした。(筆者のインタビューにて)
- (CANVASの証言)「平和的なデモの実施方法、治安部隊の暴力への対処法、(中略)どのように**人々をまとめ (organize)路上に送り込む**か」(筆者のインタビューにて)

<実際の応用>

- 実際の動員方法やデモ運営の戦術に、CANVASが教えている内容と類似
 - デモの分隊同士の情報を交換せず秘匿 (**治安部隊対策**)
 - ~~ユーモアによる**恐怖への対処**「デモはまじめなだけではなく(Not only serious)、楽しく無ければいけない。」(筆者のインタビューにて)~~ **戦術面でCANVASの技術が参考にされた**

研究結果

CANVASの4月6日運動への評価

「見通しのない運動」への批判

「エジプトは、リーダーに集中しすぎ、誰も将来のビジョンや体制以降を計画しなかったために、あまりにはやく「ゲームオーバー」を宣言するに至った」

(Nonović 2014)

→米国の運動“Occupy Wall Street”と4月6日運動を絡め、**運動の戦略を立てずにただ抗議行動をすることは、むしろ害になりうると発言している。**

※CANVASの認識と評価であり、必ずしも4月6日運動の実態を表すものではない。

自身の影響をコントロールできていない場合も

研究のまとめ RQ1への結論 (活動のメカニズム)

誰が支えているか？ :

「非暴力運動」を支援する個人や団体、研究機関、会社等の国際的なネットワークを利用し、直接的な接触のみならず、様々な媒介を通じて拡散を行っている。

(「媒介された拡散」)

研究のまとめ

RQ 2 への結論 (活動の実態)

何を :

実践的な、汎用性の高い技術と思考法。特に、運動への人々の動員方法と弾圧への対処法、組織運営のノウハウと、マーケティングの技術 (「組み立て式の拡散」) 。

誰に :

革命運動を含む、「非暴力的抵抗運動」全般、ただし CANVAS が直接関わることなく、意図しない形で利用される可能性も。

なぜ？ (思想) :

「権力への抵抗」という傾向が顕著。また、可能な限り

研究のまとめ

RQ3への結論（及ぼし得る影響）

CANVASの支援が、被支援側の運動に及ぼしうる影響：

CANVASの技術支援は、それ自体として決定的な影響力を持つとは言えない。

しかし、運動への人々の動員の手法や、組織運営、弾圧への対処法などを伝えることで、条件次第では**運動の大規模化**
・ **長期化**・ **迅速化**を引き起こし得る。

また、CANVASの直接的な指導を受けずに、手法を真似する団体も存在し得る。

研究のまとめ

研究の新規性

【新規性】

- (1) <メカニズム> CANVASの支援を可能にする **国際的な「非暴力運動支援」のネットワーク**の存在を、これまでよりも詳細に明らかにした。
= 「**媒介された拡散**」

- (2) <実態> CANVASが、「選挙モデル」や「非暴力運動」のみならず、マーケティングの手法や広報など、様々な戦術を伝えていることが明らかになった。
= 「**組み立て式の拡散**」

- (3) <影響> CANVASの支援は、地域を問わず「非暴力運動」を対象としており、**汎用性の高い戦術**のノウハウを、多様なチャンネルで提供。
= 各地の様々な**運動の大規模化・長期化・迅速化**を引き起こし得る。

- (4) <地域研究> 「アラブの春」におけるエジプトの社会運動が、**人の動員や弾圧の回避方法などの戦術面**で、CANVASの教えている内容を参考にしていた。

研究のまとめ

研究の限界・示唆

【研究の限界】

- (1) CANVASの支援による運動および体制転換そのものに対する、**中長期的な影響は不明**
- (2) CANVASの**思想については、より一層の分析**がなされるべき。
- (3) **エジプトの人々**は、CANVASや4月6日運動をどう評価しているか？

【研究の示唆】

- (1) CANVASの潜在的な影響について

彼らは「方向性の見えない運動」を批判する一方で、「組み立て式の」汎用性の高い知識を、不特定多数に公開。→**自身の影響をコントロールできていない。**

- (2) 非暴力運動の限界

CANVASは「非暴力運動で平和的な革命」ができるという。しかし、エジプトはその仮説を反証する事例ではないか（2013年にデモ隊への強制排除が発生）。

- (3) 「自由」を前提とすることへの疑問

CANVASのマニュアルでは、「権力への抵抗」「自由」は前提的な価値として扱われている。それ以外の価値を追求する運動や人々は、まったく考慮されていない。

主要参考文献

英語文献]

- Beissinger, M.R. 2007a. "Structure and Example in Modular Political Phenomena: The Diffusion of Bulldozer/Rose/Orange/Tulip Revolutions", *Perspectives on Politics* 5, 259–276.
- Bunce, Valerie and Sharon, Wolchik. 2010. *Transnational Networks, Diffusion Dynamics and Electoral Change in Post-Communist World*, in R. C. Givan, K. M. Roberts and S. A. Soule (eds.), *The Diffusion of Social Movements*, Cambridge University Press.
- Joksic, Mladen., Spoerri, Marlene. 2011. "From Resistance to Revolution and Back Again: What Egyptian Youth Can Learn From Otpor When Its Activists Leave Tahrir Square", *Carnegie Council for Ethics in International Affairs*.
- Kuzio, Taras. 2006. "Civil society, youth and societal mobilization in democratic revolutions", *Communist and Post-Communist Studies*, 39(3), 365-386.
- Ralph H. Turner, and Lewis M. Killian. 1987. *Collective Behavior*. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice Hal. 4thed.
- Soule, Sarah A., Roberts, Kenneth and Givan, Kolins Rebecca .2010. *The Diffusion of Social Movements : Actors, Mechanisms, and Political Effects*. New York, Cambridge University Press.
- Sydney, Tarrow. 2011. *Power in Movement : Social Movement and Contentious Politics*, Cambridge University Press.
- Ungerer, Jameson Lee. 2012. Assessing the progress of democratic Peace Research Program. *International Studies Review* 14, 1-31.
- Young, Iris Marion. 2001. "Activist Challenges To Deliberative Democracy" *Political Theory*, Sage Publications. 29(5).

[日本語文献]

- 板垣雄三 『アラブ革命 チュニジア・エジプトから世界へ』『現代思想』
39(4-4), 4月臨時増刊号。
- 岩崎えり奈、加藤博 『現代アラブ社会 「アラブの春」とエジプト革命』東洋経済新報社、2013年。
- 木暮健太郎 .2012. 民主化における国際的要因の諸相—比較政治と国際政治の間』『国際政治』 128, 146-149.
- 酒井啓子(2011) エジプトの歓喜とリビアの悲劇』『現代思想』 39(4-4),
4月臨時増刊号。
- 酒井啓子編 『「アラブ大変動」を読む 民衆革命のゆくえ』東京外国語大学出版会、2011年。
- 『中東政治学』有斐閣、2012年。
- 笹岡伸矢 .2012. 体制変動研究からみた「アラブの春」—旧ソ連東欧の2つの変動における仮説をめぐって—』『修道法学』 35 (1), 472-478.
- 鈴木恵美 『エジプト革命 軍とムスリム同胞団、そして若者たち』中公新書、2013年。
- ダルウィッシュ・ホサム (2009) エジプトのムスリム同胞団—新旧の課題のはざままで』IDE-JETRO.
- ターレク・オスマーン 久保儀明訳) 『エジプト 岐路に立つ大国 ナセルからエジプト革命まで』青土社、2011年。
- 長沢英治 『エジプト革命 アラブ世界変動の行方』平凡社新書、2012年。
- 廣瀬陽子 (2012) 旧ソ連諸国が危惧する第二の「色革命」』『地域研究』 12(1), 88–112.
- 藤原帰一 (2001) 序章 比較政治と国際政治の間』『国際政治』 128, 1-11.
- 山内昌之 『中東 新秩序の形成—「アラブの春」を越えて』NHK出版、2012年。

主要参考資料・映像・記事ほか

【CANVAS公式資料・大学講義シラバス】

CANVAS. “Non Violent Struggle: 50 crucial points”,

<http://www.canvasopedia.org/images/books/50-Crucial-Points/NonViolent-Struggle-50-CP-book-small.pdf>,

latest view: 2014/10/16.

CANVAS. “10 Years Smarter?: Chronology of OTPOR!”,

<http://www.canvasopedia.org/images/books/OTPOR-articles/Chronology-OTPOR.pdf>, latest view: 2014/10/16.

T. Porell, S.Popovic. “Making Oppression Backfire”,

http://www.canvasopedia.org/images/books/mob/MOB_English_May2014.pdf, latest view: 2014/10/16.

Harvard Kennedy School, *The Strategic Application of Nonviolent Action*,

<http://www.hks.harvard.edu/syllabus/IGA-388M.pdf>, latest view: 2014/10/16.

【4月6日運動活動要綱】

ابريل || تصورنا لشكل الدولة 6

【報道資料】

Journeyman Picture. “The Revolution Business”,

<http://www.journeyman.tv/62012/short-films/the-revolution-business.html>, latest view: 2014/10/16.

Kirkpatrick, D, David. and Sanger, D, David. 2011. “A Tunisian-Egyptian Link That Shook Arab History”,

<http://www.nytimes.com/2011/02/14/world/middleeast/14egypt-tunisia-protests.html>,

The New York Times, , latest view: 2014/10/16.

Rosenberg, Tina. 2011. “What Egypt Learned from The Students Who Overthrew Milosevic”,

http://www.foreignpolicy.com/articles/2011/02/16/revolution_u, Foreign Policy, latest view: 2014/10/16 .

Revolution News! 2014. “Documents Leaked by WikiLeaks Show an Organization Training Opposition Around the World”,

<http://revolution-news.com/documents-leaked-wikileaks-show-organization-trains-opposition-around-world/> ,

latest view: 2014/10/16.

Stolberg, Gay, Sheryl. 2011. “Shy U.S. Intellectual Created Playbook Used in a Revolution”,

http://www.nytimes.com/2011/02/17/world/middleeast/17sharp.html?_r=0, The New York Times, latest view: 2014/10/16.

【CANVAS等の「非暴力運動」を支持する署名】

“Open Letter in Support of Gene Sharp and Strategic Nonviolent Action”,

<http://stephenzunes.org/wp-content/uploads/2010/12/Open-Letter-Academics-Zunes.pdf>, latest view: 2014/10/16

参考資料：インタビューについて

【CANVASへのインタビュー】

時期：2014年11月～12月

相手：CANVAS職員へメールインタビュー

内容：OTPOR!とCANVASの違い、各地の運動への支援内容、財政

以下一部抜粋

(筆者) CANVASの財源について

(CANVAS) 「CANVASは、政府の人間からは投資を受け入れていません。私たちは、活動の費用を賄うための無償援助に応募するため、多数の私的財団と協力しています」

(筆者) 4月6日運動への支援について

(CANVAS) 「4月6日運動のリーダーの一部が・・・2009年夏にベルグラードに来て、非暴力革命についてのCANVASの5日のコースを受講した」

(筆者) 具体的に教えた内容は

(CANVAS) 「4月6日運動のメンバーは、平和的なデモの実施方法、暴力の回避の仕方、治安部隊の暴力への対処法、そしてどのようにほかの人を訓練し、(中略)どのように人々をまとめ(organize)路上に送り込むかを学んだ」

【4月6日運動へのインタビュー】

時期：2014年8月5日～9月2日の間に繰り返し実施

補足：修士論文章立て

第1章 研究の背景と目的

- 第1節 研究の背景
- 第2節 先行研究
- 第3節 本研究の意義と目的
- 第4節 研究の手法
- 第5節 概念
- 第6節 理論的枠組み

第2章 OTPOR！とCANVASの歴史

- 第1節 OTPOR！の設立
- 第2節 OTPOR！の終焉
- 第3節 CANVASの設立と成長

第3章 CANVASの支援活動

- 第1節 支援活動の内容とその射程
- 第2節 支援の手段
- 第3節 「非暴力運動」の国際的ネットワーク
- 第4節 CANVASの思想と目的

第4章 OTPOR！とCANVASの比較

- 第1節 活動目的の相違
- 第2節 活動領域の相違
- 第3節 何が相違を生んだのか
- 第4節 シンボルとしてのOTPOR!

第5章 事例：4月6日運動へのCANVASの関与

- 第1節 4月6日運動の歴史とCANVASとの接触
- 第2節 CANVASの支援による影響の範囲
- 第3節 4月6日運動と「1月25日革命」の顛末
- 第4節 CANVASによる4月6日運動の評価

第6章 考察と結論

- 第1節 後期OTPOR！とCANVASとの相違
- 第2節 「組み立て式の拡散」モデルによるCANVASの支援内容の説明
- 第3節 「媒介された拡散」理論による活動の仕組みの説明
- 第4節 CANVASの思想
- 第5節 「非暴力運動」支援の是非と、考えられる影響

謝辞
参考文献
参考資料